

セカンドハーベスト・ジャパン2012年活動報告



セカンドハーベスト・ジャパンの活動が社会を動かしています！

2012年は、セカンドハーベスト・ジャパンの活動は、昨年にも増して成長を続けました。通常のフードバンク活動と同時に、昨年からの東北での被災地支援も継続して行っています。パントリー活動では、個人の生活困窮者が直接食品をセカンドハーベストまで取りに来れるシステムを通じて、食料支援を続けています。総じて、昨年の食品扱い高約1600トン在今年は大きく上回り、3,152トンに達しました。さらに今年、食品ロス削減に向けて、行政が動き出しただけでなく、食品業界による賞味期限見直し、3分の1ルールの見直しにむけて検討会の発足など、画

期的な出来事もありました。こうした社会の動きについては「ガイアの夜明け」など多くのマスメディアにセカンドハーベストを取りあげて頂いたことも少なからず影響があると考えています。また、海外での活動としてアジア初のフードバンク会議を香港で開催、フィリピンでは2HJが主体となって現地初のフードバンクを設立しました。支援者の皆さまの温かいご支援のおかげでこれらが全て可能になっています。今年も皆さまの応援を頂いたことにスタッフ一同感謝を申し上げます。2013年も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

CONTENTS

セカンドハーベスト・ジャパンの活動が社会を動かしています.....1
 セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス・業務評価・標準化プロジェクト報告...2
 宗教法人との連携について討議.....3

QRコードを使った配送記録がいよいよ本格的に稼働を始めました!...4
 第5回フードバンクシンポジウムを開催.....5
 消費者庁HPにリンクをはっていただいています.....6

セカンドハーベスト・ジャパンとは...

食品企業や量販店、農家、個人などから食品の寄付を受け、それらを児童養護施設や母子支援施設、DV被害者のシェルター、さらに路上生活者を支援している団体などに届けるフードバンク活動を行っています。

発行元 **セカンドハーベスト・ジャパン**
 〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-5-1水田ビル1F
 TEL:03-5822-5371 FAX:03-5822-5372
 E-Mail:info@2hj.org URL:http://www.2hj.org

セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス： 業務評価・標準化プロジェクト報告

日本のフードバンク業務のレベルを上げ、さらにフードバンクアライアンス（連盟）を作るという目標の一環として、アメリカの人道物流活動の専門団体であるFritz Instituteのスタッフがフードバンクの業務評価を定期的に行うためのシステム作りの援助を申し出てくれました。3.11の直後、Fritz Instituteのディレクターであるミッチ・ミズシマ氏が専門的物流支援のために来日した際に2HJ理事長のマクジルトンがミズシマ氏と会いました。その際に、ミズシマ氏の方から、研修や専門サービスを日本のフードバンクに対して行える旨の申し出を頂きました。Fritz Instituteが行う重要なサービスの一つに、業務の全体評価があります。今回Fritz Instituteに出会うまで、こうしたサービスを提供できる団体は他にありませんでした。

この評価プロジェクトの目標は、フードバンクの最適業務を妨げている要因の特定と、現在の能力を把握した上で、サプライチェーン能力を向上させるための実践的な提案をいただくことでした。

8月以降、Fritzから2名の評価チームと食品卸会社であるCSWGのサプライチェーン専門家2名が、Feeding AmericaやGlobal Foodbanking Networkといったフードバンクのネットワーク団体及び、米国のフードバンク団体を訪問し、フードバンクの業務について理解を深めた上で、来日しました。日本では、仙台、山梨、東京のフードバンクを訪問し、フードバンク及びサービス受給者の視点から業務を視察しました。

プロジェクトを通して、評価チームはサプライチェーン業務、人材、情報、パフォーマンス、フードバンク間の協働といった業務において重要な分野について調査・分析を行いました。評価活動の結果として、31ページに渡る報告書を頂き、改善の提案やスコアカードが提供されました。報告書は日本語にも翻訳されました。

2HJ理事長マクジルトンは、「こうした詳細な報告書は、25万ドルかかると伺っています。長い間、業務改善を行いたいと思っておりましたが、今回の評価の詳細は、期待以上のものです。しかしそれ以上に、今回の評価を通じて、別の視点から私たちの団体を見ることができ、これまで限られたリソースで私たちが達成してきたことについて改めて理解を得ることもできました。」と語っています。

セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンスとは

このアライアンスは日本のフードバンク発展を行い、企業からメンバーが食品や資金へのアクセスを得やすいようにします。フードバンクが信頼でき、持続可能な活動であるようにするために食品企業から長年このアライアンスの設立を求められていました。

アライアンス加盟要件

- 1) 外部機関による業務監査を定期的に行う
- 2) 資金モデルを伴った事業計画を作成する
- 3) 組織発展のための諮問委員会を作り、外部の関係者を取り込んでいく

公益法人として、アライアンスは寄付者に税額控除を提供できるようになります。将来は、物品寄付についても税額控除を提供できるようになればと思っています。加盟メンバーは、より大きな資金、食品、物流サポートを得られるようになります。私たちは、これは、日本のフードバンクにとって重要な一歩だと信じています。

3分の1ルール緩和へ

～食品ロス31万トンのドイツと500-800万トンの日本～

広報 井出留美

大手スーパーや卸、メーカー約40社でつくる協議会が、流通業界の商習慣である「3分の1ルール」を緩和する方針を決めたそうです（読売新聞2012年9月29日14時41分配信）。

この記事は、Yahoo!ニュース「食品」に掲載されました。その記事ページを見たところ、私が今年4月13日に「3分の1ルール」について書いたコラムが取り上げられており、大変驚きました。日本は数兆円分もの食糧を捨てている！小売業界の「3分の1ルール」-オンエアナビ「一人広報の達人イデルミのコラム」(4月13日)-

「3分の1ルール」とは、「納入期限は、製造日から賞味期限までの期間の3分の1の時点までに」「販売期限は、賞味期限の3分の2の時点まで」というものです。賞味期限が、残り3分の1以下のものについては、まだ食べられるにも関わらず、販売を認めない＝返品・廃棄ということになります。缶詰などの長期保存がきく食品の場合、賞味期限が3年以上あります。仮に3年だったとすると、賞味期限が残り1年以上もあるにも関わらず、安売りや廃棄の対象となります。企業によっては、臨機応変に対応している場合もありますが、額面通りに一律「3分の1」で対応する企業もあります。

このような商習慣のルールが、まだ食べられるのに廃棄される「もったいない食品」を生み出す一つの元凶となっています。読売新聞の記事によれば、「流通段階のムダをなくす」目的で、近く有識者を交えた検討チームが発足され、来年2013年度をめどに具体策をまとめるそうです。食品メーカーに14年以上勤務してこる中で、「3分の1ルール」のナンセンスさを実感し、昨年2011年から震災支援をきっかけに、本格的にフードバンク活動に携わるようになり、さらに強く感じ、2012年4月13日に、上記コラム、日本は数兆円分もの食糧を捨てている！小売業界の「3分の1ルール」を書きました。

また、今年の6月からは、テレビ出演のたびに、3分の1ルールが食料のムダを生み出していることについて指摘してきました。(6月1日および4日放映NHK「特報首都圏」、6月23日BS-TBS「News21」、9月12日テレビ朝日「スーパー」チャンネル)「(3分の1ルールは)何年間も変わらなかったんだから、そう簡単には変わるわけがない」と、なかば諦めながら、でも発信しなくては使命感を感じての訴えでしたが、一歩前進したこと、嬉しく思います。ネット上のコミュニケーションも、無駄ではない、伝わる時には伝わるのだ、社会を変えることができるのかもしれない、と思いました。

日本は、年間2028万トンの食糧を廃棄しており、そのうち500-800万トンがまだ食べられる食品（食品ロス）です。その量は、年間のコメ生産量（839万トン）に匹敵し、金額換算すれば、兆の単位になります。

2011年11月24日付のオルタナオンラインの記事で、ドイツでは、年間31万トン、12億ユーロ相当（約1236億円）の食品が廃棄されていることが、ドイツ小売研究所の調査で明らかになったそうです。これを受け、ドイツ連邦消費者保護・食糧・農業省のイルゼ・アイクナー大臣は、2012年、食品ロスの実態について連邦独自の調査を実施とのこと。
<http://www.alterna.co.jp/7637>

同じくオルタナオンラインの2012年5月11日付の記事では、イルゼ・アイクナー大臣が、年間1100万トンの食料廃棄を「耐え難い数字」とし、食料廃棄実態報告書の記者発表の場で怒りを露（あらわ）にした、とあります。同相は、「いまや食べ物の消費に対する闘いは政治的課題」と明言し、報告書発表と同時に、一般消費社向けの啓発キャンペーン「捨てるには良すぎる」をスタートさせたとのこと。
<http://www.alterna.co.jp/8991>

EU域内では、1600万人が定期的にフードバンクを利用すること。欧州議会のサルバトーレカロンナ議員(イタリア)は「食料廃棄は倫理だけでなく、経済的、社会的な問題だ」と議会で力説し、欧州委員会に加盟27カ国の協働戦略策定を要求し、委員会がこれを受けて2020年までに食料廃棄量を半減する目標を設定したそうです。

このプロジェクト実行母体を設置し、加盟各国の支部で食品関連団体、政府、NPO、研究機関と連携し、モニタリングや具体的な措置の策定を2012年6月から開始しているそうです。2014年は「欧州の食料廃棄反対年」になるとのこと。

ドイツの食品ロス、日本の16～30分の1程度ですが、国のトップが具体的な方策を打ち立てています。ドイツの16～30倍もの食品ロスを生み出している日本の現状は・・・どうでしょうか。

宗教法人との連携について討議

全国各地にあるお寺。この数が、なんとコンビニエンスストアよりも多過ぎてご存知でしたでしょうか。全国には、お寺が75,000以上、宗教法人は18万以上あるそうです。

お寺は、お供え物などが集まるところで、敷地面積もある程度確保されています。滋賀県内のお寺400カ所以上が連携し、東日本大震災の後、合計7トンのお米を被災地に寄贈しました。東京では、13カ所以上のお寺が協働し、セカンドハーベスト・ジャパンにお米や醤油などの食料品を寄贈して頂いています。



11月10日に奈良県天理市で開催された、第三回宗教と環境シンポジウムでは、お寺や宗教法人がフードバンクと連携することにより、お寺が、生活困窮者などが食料に困ったときの拠点となる可能性や、災害時に備えての備蓄もできるのでは、という意見が出されました。

米国では、教会がパントリーの役割を果たしています。日本でも、お寺などが米国の教会のような役割を果たすようになれば・・・と思いますが、いかがでしょうか。

ハインツ日本様、2商品の売上の1%を東日本大震災支援活動のために寄付



セカンドハーベスト・ジャパン(2HJ)を長く継続的に支援してくださっているハインツ日本株式会社様が、2つの商品、「ハインツトマトケチャップ逆さボトル」と、冷凍フライドポテトの「オレアイダ スーパークリスピー」の売上の1%の一部を、われわれ2HJの東日本大震災支援活動のために寄付して頂きました。セカンドハーベスト・ジャパンは、2011年3月11日の東日本大震災発生時より現在に至るまで、被災地への支援物資の運搬や、全国で避難生活をする方への食品詰め合わせパッケージの送付、福島県から避難されている方への炊き出し活動など、東日本大震災復興支援のための活動を続けています。その中で、今年の10月から12月にかけておこなう支援活動に対して、ハインツ日本様の2商品の売上の1%を充たさせて頂くことになりました。限られた寄付金の中でやりくりして続けている活動に対して、このような支援を頂けることを、とても有難く思います。今回のハインツ日本様からの寄付に関して、詳しくは、ハインツ日本様の公式ホームページとプレスリリースをご覧ください。

http://www.heinz.jp/about/press/type/rl/id/pr_rl00162
http://www.heinz.jp/download/pr_rl00162.pdf

食品支援企業との話し合いを通じて協力を頂いています

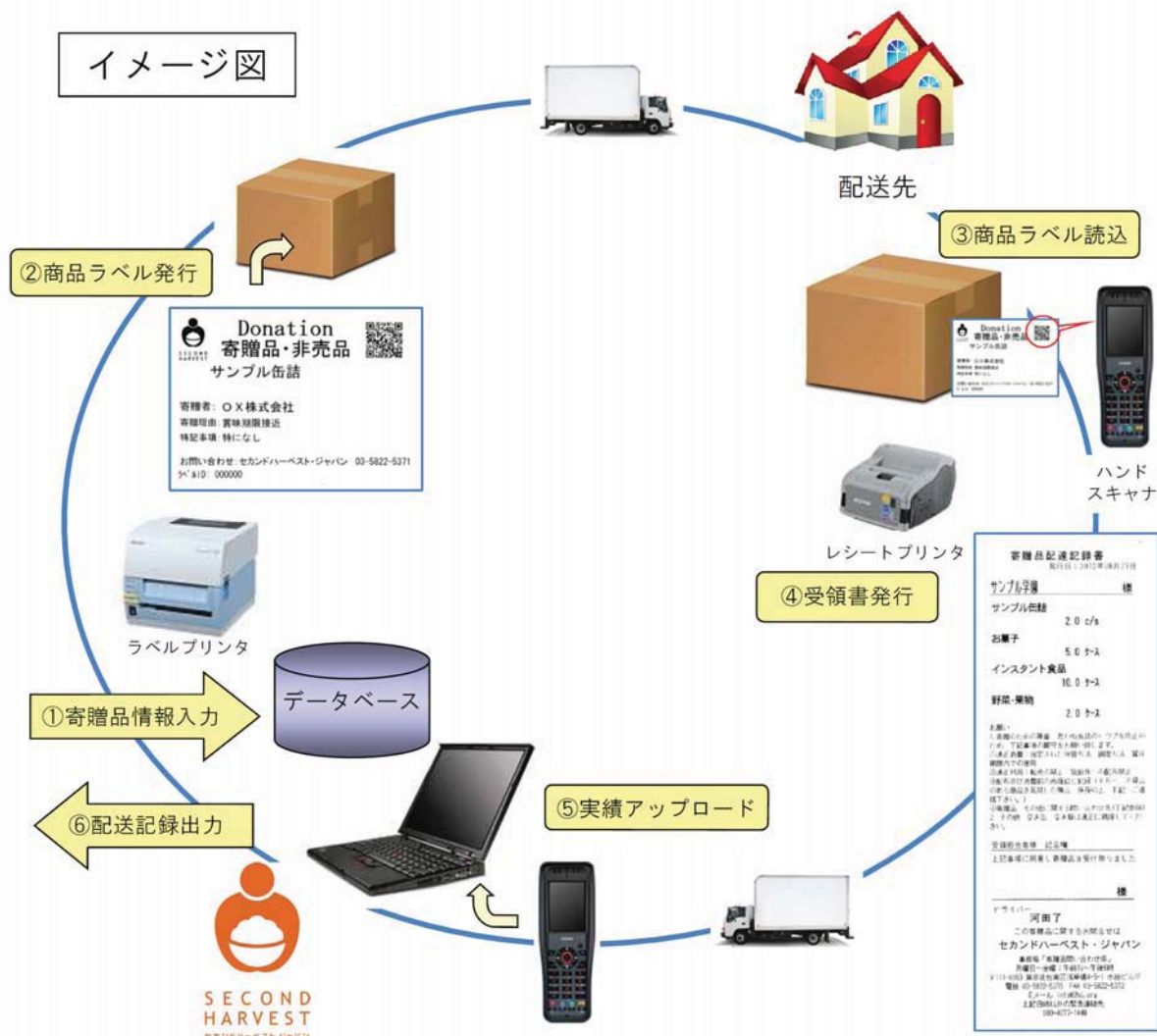
今年12月に開催されたFAB(フード・アドバイザー・ボード、食品支援企業との定例会議)では17社の食品企業ご担当者に出席いただき日本のフードバンクの諸活動について報告をしました。「衛生面の改善報告」と題して、参加企業の皆さまに2HJ新事務所の見学と、現行のパントリーシステム(個人支援)を見学して頂くところから会議を始め、「安心&安全にフードバンク活動を推進するために」と題して2HJが地方のフードバンク団体および提供施設と交わしている確約書/確認書についての説明、2次元コードスキャナーによるトレーサビリティの強化について紹介しました。また「2013年の方向性」として、子どもの貧困に対する今後の2HJの取り組みや施設インタビュー調査の報告を行い、またハインツ日本株式会社の池田様からCause Related Marketing(CRM)の取り組みについてお話を頂きました。また、フード・ドナー・アライアンス(FDA)についても説明を行いました。最後に食品業界全体で動き始めた「食品ロス削減」についての意見交換を持ちました。とても充実した会議に参加企業の皆様と持たせていただきました。



今回の参加企業の一つジェイティ飲料様の協力を実現した2HJ自販機

QRコードを使った配送記録がいよいよ本格的に稼働を始めました！

セカンドハーベスト・ジャパンの配送記録システム



2012年、セカンドハーベスト・ジャパンでは急増する寄贈食品の配送記録作業の効率化のため、(株式会社サトー様と協力して)ラベルと(携帯)情報端末を使った新しいシステムを導入しました。典型的な流れは次のようになります。寄贈品を受け取った際に商品情報のはいったラベルを発行、寄贈品の箱に貼り付けします。配送先ではラベル上のQRコードをハンドスキャナを使って読み取り、モバイルプリンタを使ってレシート様の配達記録書を発行、受け取りのサインをもらいます。本部に戻った後はハンドスキャナをコンピュータにUSB接続し



データをアップロードします。これによっていつ、誰が、何処に、どの車で、何を、何個配ったのかを正確かつ迅速に僅かな労力で記録することが出来ます。このデータはリリース

ナルデータベースによって様々なデータと簡単に結び付けて加工することが出来、寄贈企業に対する配送報告はもちろん、たとえば地域ごとの配送件数や施設の種類ごとの食品供給量、車輛の稼働率、寄贈品の寄贈理由の重量ごとのランクといった様々なレポートを出力し活動の分析に活かすことが出来ます。これからも皆様のご支援のもと、よりハイレベルな活動を目指して業務を改善していきます！

ドイツ銀行様とJPモルガン様から石巻プロジェクトにご支援を頂いています

被災地の石巻においてセカンドハーベスト・ジャパンは、食料支援活動をおこなって来ていますが、今年の半ばにこの石巻プロジェクトの活動資金調達の見込が立たず、判断を迫られる局面がありました。石巻でのフードセーフティネットの構築にセカンドハーベスト・ジャパンとしては専心していくつもりで

したが、同時に同プロジェクトを継続していくのは非常に高コストでどうやって継続していくかという状況になりました。そこで、理事長マクジルトンは借りていた事務所の契約更新は行わず、資金の目処が付く限り活動は続けて行こうと同プロジェクト担当の芝田と決めました。こうした私たちの状況に対して、ドイツ銀行とJPモルガンの皆様も、資金援助を決定してくれました。今年12月14日にドイツ銀行のジョン・ハナワさんが2HJ理事長チャールズ・マクジルトンに電話にて、2013年度に石巻プロジェクトのために1200万円の寄付を下される旨をご連絡くださいました。また、JPモルガンからも寄付決定のご連絡を頂いています。

この寄付のおかげで、私たちは石巻での活動を継続し、フードセーフティーネットの構築を進めていくことができます。今後、支援や情報を求めている困窮者の方向けに、フリーダイヤルの電話番号設置も計画しています。石巻でのプロジェクトは、日本全国でのフードセーフティーネット構築というより大きな目標に向けた重要なステップです。セカンドハーベスト・ジャパンのスタッフ一同、ドイツ銀行様とJPモルガン様に、心から感謝を申し上げます。

第5回フードバンクシンポジウムを開催

10月9日に、第5回フードバンクシンポジウムを中央大学駿河台記念館にて行いました。今年は初めて、お昼をはさんで終日のプログラムとし、北から南まで110名の方が会場に集まっていただきました。2HJスタッフからのパントリー活動と物流業務評価プロジェクト等についての報告の後、施設を代表して母子生活支援施設 睦ハイム 理事長濱田静江様からお話を頂き、セカンドハーベスト・アジアの李永淑から韓国のフードバンクシステムについてご紹介しました。さらに支援企業の事例としてサントリーホールディングス株式会社 品質戦略部課長森川様、キューピー株式会社 広報・CSR本部 社会・環境推進部 課長 前田様、アサヒロジスティクス株式会社 専務取締役 横塚様からそれぞれ各企業のフードバンクへの取り組みについてご紹介いただきました。参加者からの質問も多く出て充実したシンポジウムになりました。



睦ハイム 理事長
濱田静江様



サントリーホールディングス株式会社
品質戦略部課長森川様



キューピー株式会社 広報・CSR本部
社会・環境推進部 課長 前田様



アサヒロジスティクス株式会社
専務取締役 横塚様

2HJのソーシャルメディアから



ハロウィンに、スタッフ全員で仮装をしました！事務所の前でグループショットです。オレンジの人はロゴのライスマン。さて、スタッフの誰でしょうか？

2HJのフェイスブックページでは、普段の活動の様子を楽しい写真と一緒にご紹介しています。まだご覧になっていない方、是非2HJのHP(www.2hj.org)からアクセスして下さい！

ツイッターは、こちら 2ndharvestjapan (日本語) 2HJ_en (英語)

香港でアジア初のフードバンク会議を開催



セカンドハーベスト・ジャパンの姉妹団体であるセカンドハーベスト・アジアが主催して、香港でアジア初のフードバンク会議を開催しました。シンガポール、マレーシア、フィリピン、韓国、香港、日本、アメリカの7カ国からフードバンク関係者が集まり、アジアでのフードバンクの共同の可能性について話し合いました。今後も継続的に開催していきます。

フィリピンでのフードバンク活動

セカンドハーベスト・ジャパン (2HJ) では、姉妹団体のセカンドハーベスト・アジアと共同で今年3月にフィリピンにフードバンクを新しく設立しました。7月には、フードバンク活動の実行性調査を行い、10月からは試験プロジェクトとしてマニラ近郊の街ターラックの日系の会社からオクラの寄贈を受け、それを貧困者支援を行う地元 NGO に提供し始めました。10月には、2HJ 広報の井出留美と理事長マクジルトンが JICA の渡航費助成プログラム「ホップ！ステップ！！国際協力」から助成を受けて渡比しました。ありがとうございました。



取れたばかりの新鮮なオクラ



地元 NGO 等に届けました

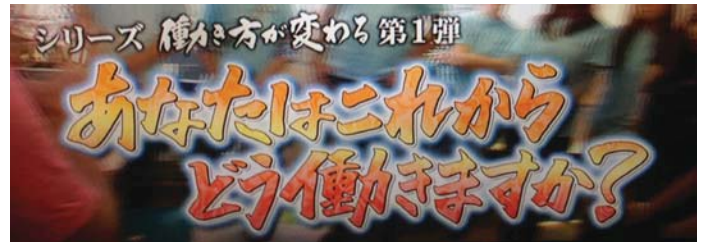
全国フードバンク団体について、農水省・消費者庁 HP にリンクをはっていただいています。

国が、内閣府（食育担当）、消費者庁、環境庁、農林水産省の4省庁と連携して食品ロス削減を進めていくという方針をとった一環として全国のフードバンク団体を農水省・消費者庁のHPにて紹介いただいています。



テレビ東京系列「日経スペシャル ギアの夜明け」で、2HJ とそこで働く人が特集されました！

11月6日の放送で、番組全体が3つにわかれ、その最後の3つめで約10分程紹介いただきました。ギアの夜明け10周年特別企画「あなたはこれからどう働きますか？」シリーズ第一弾。



メディア掲載情報

- 11月6日 - テレビ東京系列「ギアの夜明け」10周年特別シリーズ企画「あなたはこれからどう働きますか？」
- 11月4日 - 読売新聞全国版 11月4日付 10面
- 10月31日 - テレビ朝日「スーパー」チャンネル
- 10月28日 - 読売新聞朝刊 3面に特集記事
- 10月5日 - テレビ朝日系列「モーニングバード」
- 10月3日 - フジテレビ系列「スーパーニュース」
- 9月12日 - テレビ朝日系列「スーパー」チャンネル
- 8月2日と9日 - レインボータウン FM「すぎはら美里のガールズミラター」
- 7月22日と29日 - 文化放送（ラジオ）「真善のなんか気になるっ」に出演
- 6月末 - TBS「Nスタ」
- 6月23日 - BS-TBS News21 サタデースコープ
- 6月21日 - 読売新聞 全国版 朝刊 社会面掲載
- 6月7日 - 日本経済新聞千葉版
- 6月1日及び4日 - NHK「特報首都圏」
- 6月1日 - PR Year Book 2011-2012（日本PR協会発行）
- 6月1日 - 農林水産省広報誌 aff（あふ）（農水省HPにも掲載）
- 5月2日 - 朝日新聞 5月2日付千葉版
- 4月26日 - 国会に提出する農林水産省白書
- 4月18日 - ラジオニッポン「ヨコハマろはす」に出演
- 4月11日 - 毎日新聞全国版
- 3月13日 - 日本経済新聞朝刊の首都圏版
- 1月18日 - 東京新聞（同じ記事が、中日新聞でも紹介）
- 1月13日 - 山梨新報

数字で見るセカンドハーベスト・ジャパンの活動

- 3,152ト** 2012年に寄贈を受けた食品の総量は、3,141トンです。
- 福祉貢献度 18億9120万円** 2012年これまでに取り扱った食品をキロ当たり600円で換算すると、18億8491万円相当もの食品を届けたこととなります。
- 65回** 2012年1月から12月末まで東北へ65回に渡ってトラックで食品配送をしました。
- 14,475.8キロ** 個人の方がたから頂いた食品寄贈の総重量です。のべ941名の方から頂きました。
- 4,839人** 今年ボランティアに参加して下さった方がたの人数です。ボランティア登録者数は、3,000人を超えました！
- 20,768食** 旧騎西高校での炊き出しも含めた炊き出し総配給数です。

講演

セカンドハーベスト・ジャパンは、全国からたくさんのご講演依頼を頂いています。理事長のチャールズ・マクジルトンはじめ、スタッフの大竹や広報の井出、現場で働くスタッフが、講演テーマに応じて全国を駆け回り、会場で講師として語り、幅広い分野で、フードバンク活動や継続的震災支援の必要性を訴えています。ご依頼頂くテーマとしては「フードバンク」「NPOで働くとは」「食糧問題」「環境問題」「NPOの広報戦略」「NPOのインターネット戦略」など、多岐にわたっています。ご依頼頂く方は、メールでinfo@2hj.orgまでご連絡ください。

ご支援をお願いします。

セカンドハーベスト・ジャパンは、被災地及び全国の生活困窮者支援活動を日々展開しています。一人でも多くの方たちに食べ物を届けてほっとする時間を持ってもらいたい。そうした支援を可能にするためには、皆さまのご支援が必要です。あなたの募金が、必要のある方たちに食品や物資を届ける力になります。皆さまのご支援に心から感謝申し上げます。

セカンドハーベストのHPから募金頂けます。
www.2hj.org までお越し下さい。ご質問は、
donation@2hj.org または 03-5822-5371 にお願ひします。

銀行振込・郵便振込での募金はこちら

- 郵便口座**
- 名義：2HJ
- 口座番号：00120-7-171027
- 銀行口座**
- 銀行：三菱東京UFJ銀行 用賀出張所(762)
- 口座種類：普通
- 口座番号：3647565
- 口座名義：セカンドハーベスト・ジャパン
- 銀行振込をご利用の方は、2HJ事務所までご寄付を送っていただいた旨をご連絡ください。受け取り確認の旨のご連絡を差し上げます。